



神戸天然物化学株式会社

**2020年3月期第2四半期
決算補足説明資料**

証券コード：6568

2019年11月13日



1. 会社概要

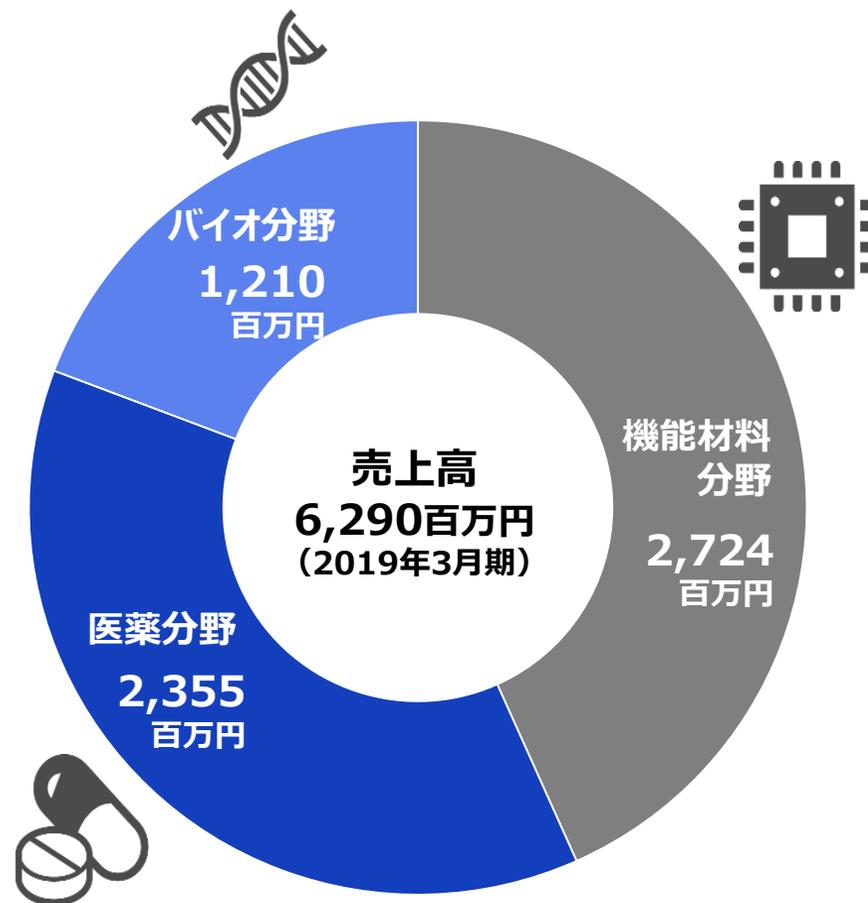


1-1. 基本情報

会社概要

社名	神戸天然物化学株式会社 KNC Laboratories Co., Ltd.
代表者	代表取締役社長 宮内 仁志
設立年月	1985年1月
本社住所	神戸市西区高塚台三丁目2番地の3 4
事業内容	有機化学品の研究・開発・生産ソリューション事業
役員・従業員数	282名 (2019年9月末)
拠点	兵庫県 (本社・神戸工場・神戸研究所、岩岡工場 市川研究所、KNCバイオリサーチセンター) 島根県 (出雲第一工場・第二工場) 東京都 (東京営業所)
総資産	10,975百万円 (2019年9月末)

売上高構成比



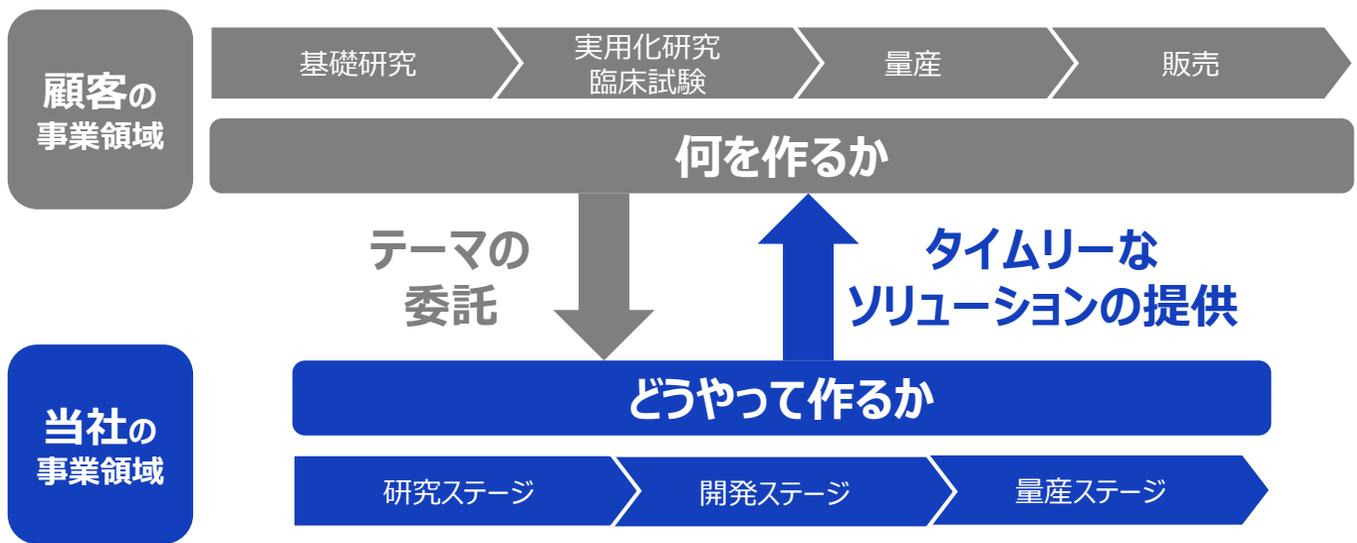


神戸天然物化学：

有機化合物の受託研究・開発・量産を手掛ける先端技術会社

- 機能材料、医薬、バイオの3事業を展開
- 大手化学・製薬メーカーの商品開発にて発生する製造等の難易度が高く、高付加価値な製品・サービスを提供
- 研究・開発・量産とステージアップすることで高収益を獲得するビジネスモデル

ソリューションの流れ

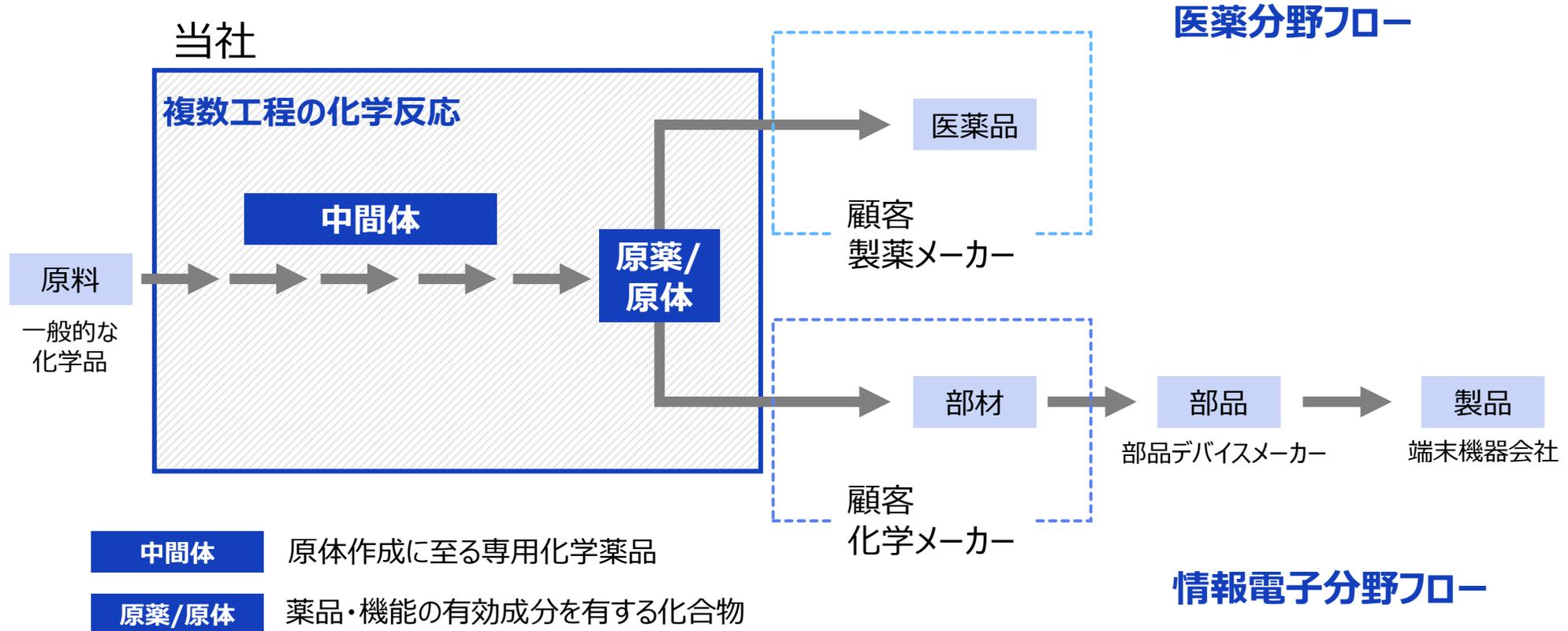




1-3. バリューフロー

- 一般的な化学品に対し複数工程の化学反応を施すことで医薬分野、情報電子分野で用いる原薬/原体を製造する

当社のバリューフロー

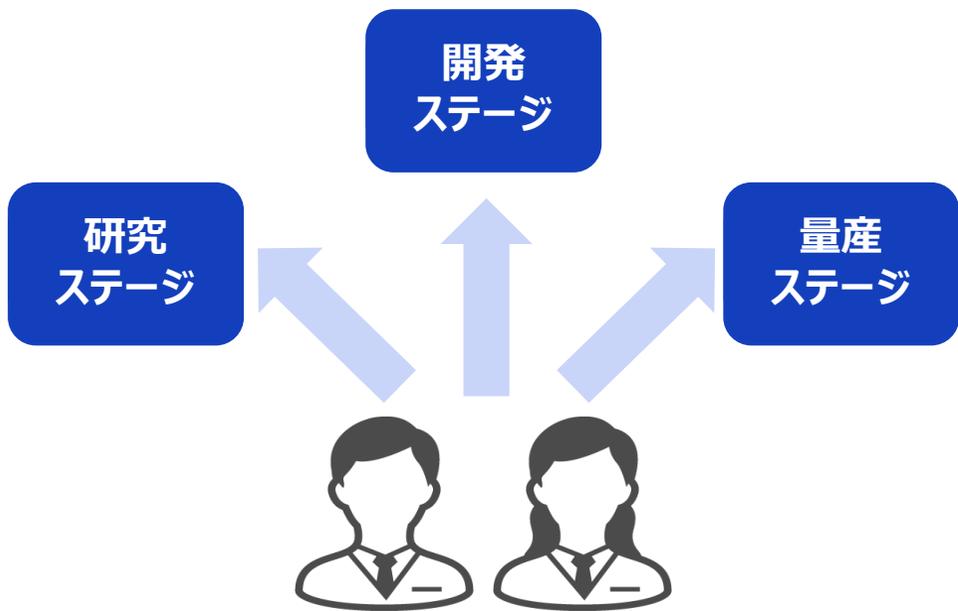




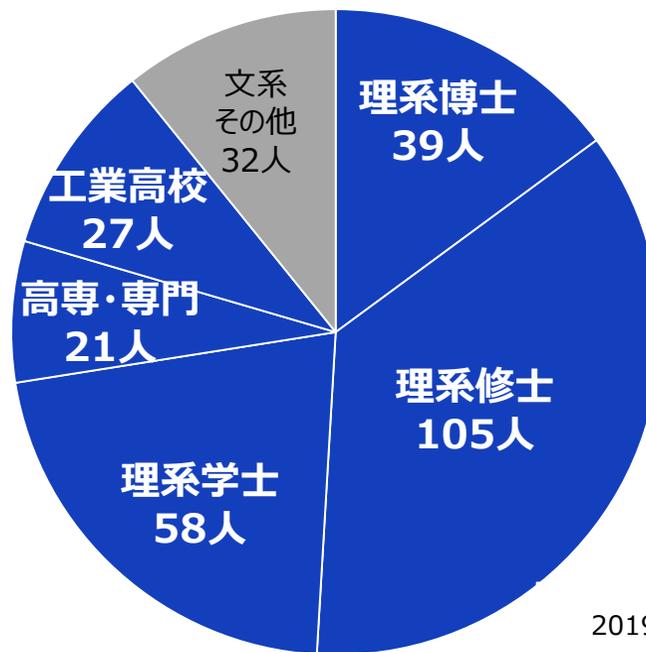
1-4. 高度な技術者集団

- 各人が研究から量産まで幅広いテーマを扱うことでノウハウが社内に蓄積
- 役員・従業員282名のうち約9割が理系であり、研究・開発ステージを牽引
- 技術者が営業現場に出るケースも多く、スタッフは幅広い視野を維持

全てのステージを扱うことでノウハウが蓄積する環境



役員・従業員に占める「理系」社員の割合



2019/9末現在

- 社員は研究・開発・量産のあらゆるステージに関与
- 当社の技術、ノウハウ、知見を幅広く習得できる環境

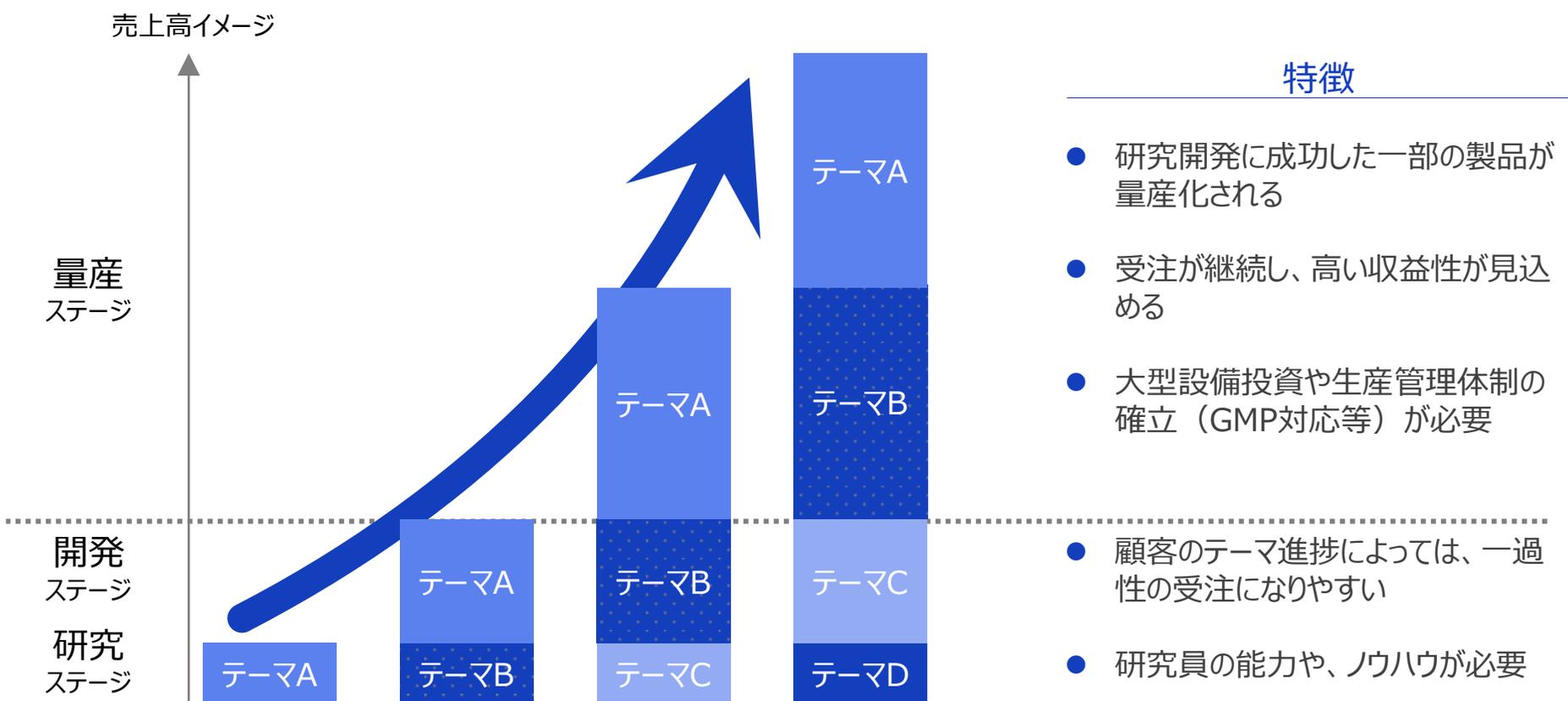
- ソリューションを提供するためには問題発見、解決能力が不可欠
- 当社の社員は入社時点で一定の素養を習得している



1-5. ステージアップグロースによるビジネスモデル

- 研究・開発・量産とステージアップさせ、1つのテーマを大きく成長させるビジネスモデル
- 量産ステージは継続受注が見込める、ストックタイプの収益モデル
- 顧客に対してワン・ストップ・サービスを提供

1つのテーマを成長させ、量産ステージで多くの収益を獲得するビジネスモデル

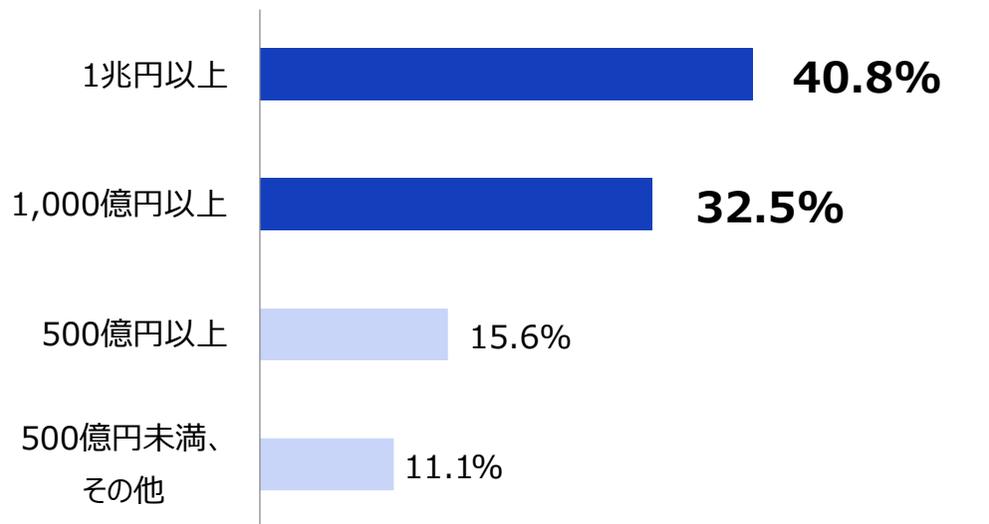




1-6. 優良な顧客基盤

- 顧客の大半は、売上規模1,000億円を超える大手化学・製薬メーカー
- 長期にわたる取引実績が、顧客との強い信頼関係の証

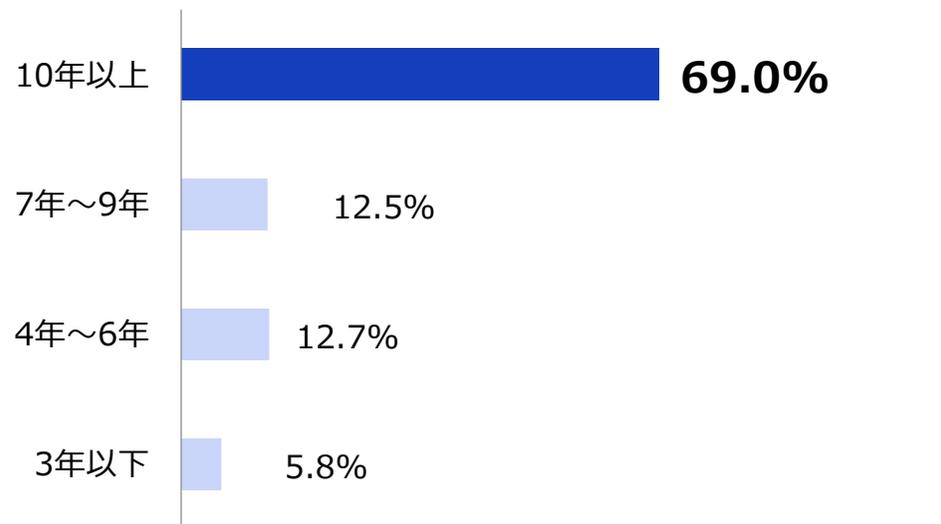
顧客の売上規模



売上高に占める割合

注：2019/3期における売上上位50社
(売上高の97.3%に相当)

顧客との取引年数



売上高に占める割合

注：当社の2019/3期における顧客別売上

- 事業規模の大きな顧客との取引が大半を占める
- 過去14年間で累計約638社との取引実績

- 当社の技術力が評価されることにより、信頼関係が深まり、取引が継続される
- 取引年数が長い顧客からは、より大きなテーマの受注が可能となる



2. 2020年3月期2Q決算実績及び通期見通し



2020/3期2Q決算におけるポイント

- 1 2020/3期は下期偏重型の展開
- 2 2Q決算は特定商品の期ズレを除けば想定内の着地
- 3 一部商品の顧客サイドでの競合は継続



2-1. 2020年3月期第2四半期 経営成績

- 対前年では大幅な減収減益。機材分野での一部商品の端境期入り及び競合発生、バイオ分野での期ズレが影響。一方、医薬分野では開発ステージ案件拡大を受け増収
- 通期見通しに対しての進捗率はやや低いものの、期ズレの影響を除き、ほぼ想定範囲内

経営成績の推移

(百万円)	2018/3期	2019/3期		2020/3期		前年比較	2020/3期 進捗率
		2Q累計	通期	2Q累計	通期見通し		
売上高	6,312	2,924	6,290	2,463	6,400	△15.8%	38.5%
機能材料分野	2,962	1,507	2,724	1,090	2,550	△27.7%	42.8%
医薬分野	2,881	908	2,355	989	2,700	+9.0%	36.7%
バイオ分野	468	509	1,210	383	1,150	△24.7%	33.3%
営業利益	1,222	514	1,240	71	680	△86.1%	10.5%
経常利益	1,208	546	1,285	104	730	△81.0%	14.3%
経常利益率	19.1%	18.7%	20.4%	4.2%	11.4%	△14.5pp	—
当期純利益	900	407	936	134	530	△67.0%	25.3%
EBITDA*	2,004	870	1,995	443	1,650	△49.0%	26.9%
EBITDAマージン*	31.7%	29.8%	31.7%	18.0%	25.8%	△11.8pp	—

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



2-2. 四半期別経営成績推移

- ・ スロースタートの1Qを底に2Qは着実に改善進むも、まだ加速感は生じず
- ・ 医薬分野では1Q発生の期ズレ分の上乗せにより2Q売上が急増。一方、バイオ分野では2Qで期ズレが発生。機材分野はやや弱めの推移ながら、想定範囲内との認識

	2018/3期				2019/3期				2020/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,606	1,278	1,755	1,671	1,405	1,518	1,502	1,864	1,012	1,450
機能材料	710	755	605	891	812	694	615	601	537	552
医薬	866	439	945	630	355	552	567	879	226	763
バイオ	29	84	205	149	237	271	318	382	249	134
営業利益	388	239	443	150	325	188	268	457	△20	92
経常利益	405	246	434	123	348	197	265	472	1	102
経常利益率	25.2%	19.3%	24.7%	7.4%	24.8%	13.0%	17.7%	25.4%	0.2%	7.1%
当期純利益	284	162	271	183	255	151	194	334	△3	137
EBITDA*	573	431	643	356	498	371	460	664	164	279
EBITDAマージン*	35.7%	33.7%	36.7%	21.3%	35.5%	24.5%	30.6%	35.7%	16.2%	19.3%

* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出



2-3. 2020年3月期第2四半期 財政状態

- 自己資本比率は85.9%。盤石な財務に変化なし。実質無借金経営も継続
- ただし、設備支払集中などにより現預金は減少。売上堅調で医薬向け在庫も積上げ

財政状態の推移

(百万円)	2018/3期	2019/3期	2020/3期 2Q	前期末差異
流動資産	7,124	4,774	3,488	△1,285
現預金	5,413	3,072	1,021	△2,051
棚卸資産	975	1,097	1,534	+436
その他	735	605	933	+328
固定資産	5,563	7,227	7,487	+259
総資産	12,688	12,002	10,975	△1,026
負債	3,951	2,547	1,542	△1,004
有利子負債	2,256	978	649	△328
その他	1,695	1,569	892	△676
純資産	8,736	9,454	9,433	△21
負債純資産合計	12,688	12,002	10,975	△1,026

未払費用、設備費用、税金支払、配当支払、などに充当

期ズレのあったバイオ分野に加え、受注堅調な医薬分野で引続き増加

設備投資額：10.5億円
減価償却費：3.7億円

設備費用/税金支払い進行により減少

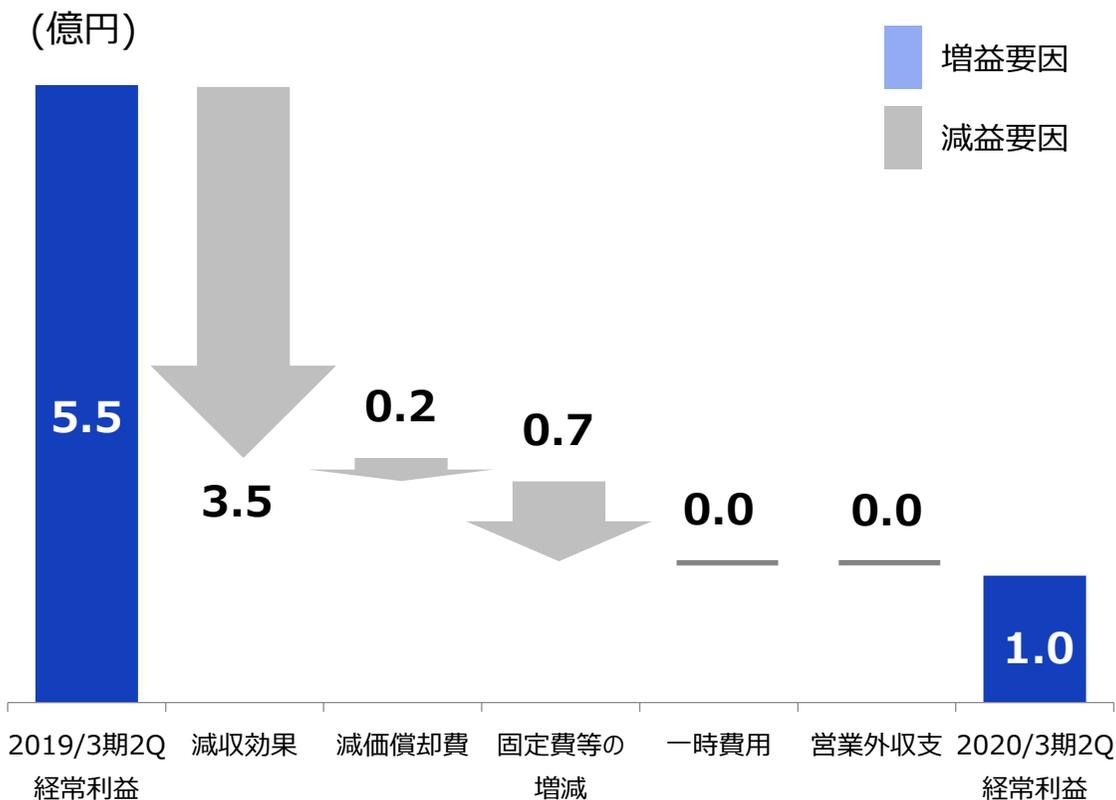
自己資本比率85.9%



2-4. 2020年3月期第2四半期 経常利益増減要因分析

- 前年比では機能材料、バイオの減収が影響。業容拡大による人員増も利益を圧迫
- 機能材料では大型案件一巡に加え、一部商品の顧客で競合発生の影響が継続
- バイオでは期ズレ案件が影響。ただし、この反動が下期の嵩上げ要因に

2020年3月期_第2四半期 経常利益の増減要因



- 減収効果 Δ 3.5億円
機能材料分野：高採算プロジェクトの一巡
医薬分野：開発ステージ案件増加による増収
バイオ分野：一部製品で売上期ズレが発生
- 減価償却費の増加 Δ 0.2億円
年間設備投資計画 28億円(前期20億円)
2Q累計減価償却費 3.7億円
- 固定費等の増加 Δ 0.7億円
人件費増 Δ 0.6億円
- 一時費用 0.0億円
年間では2.4億円を想定
- 営業外収支の改善 +0.0億円

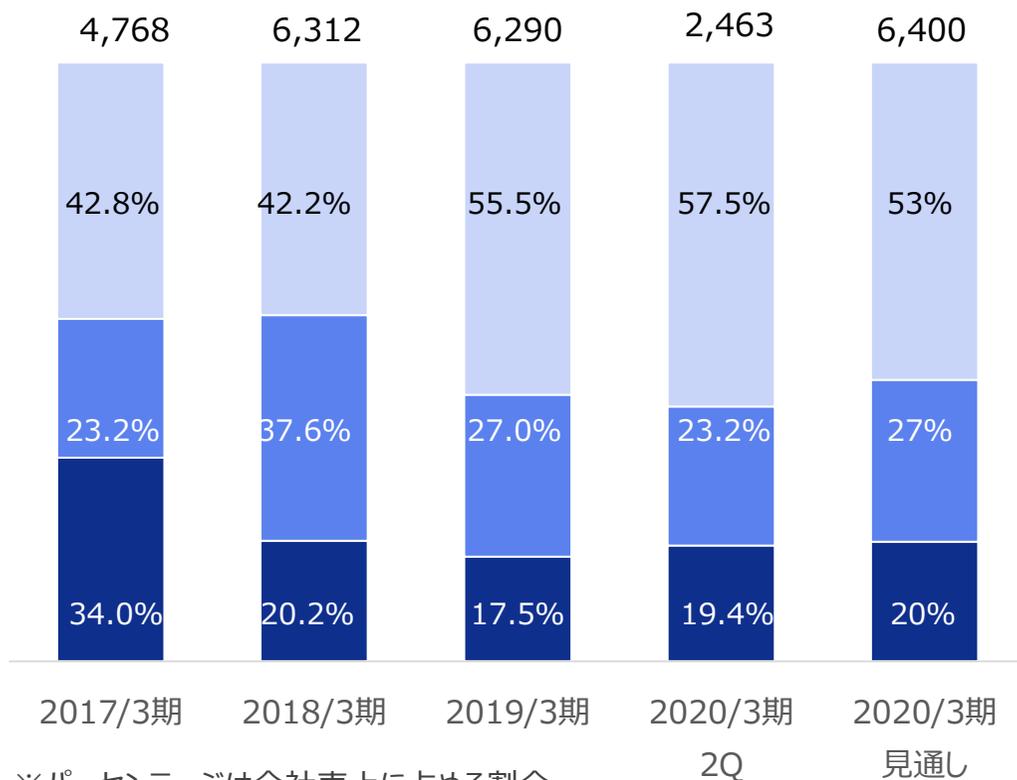


2-5. ステージ別売上高比率

- 2020年3月期2Qは、研究・開発ステージが伸長し、累計では通期見通しに接近
- 数量効果の期待できる量産ステージの次世代製品育成に向けて、研究・開発ステージの強化に注力。一方、量産ステージでは生産能力の拡大を急ぐ

ステージ別売上割合推移

(百万円) ■ 研究 ■ 開発 ■ 量産



- 機能材料分野では、予定通りに量産ステージを中心に展開
- 医薬分野では、開発・量産ステージは計画とおりに進捗
- バイオ分野は開発ステージの出荷の期ズレのため低調に進捗

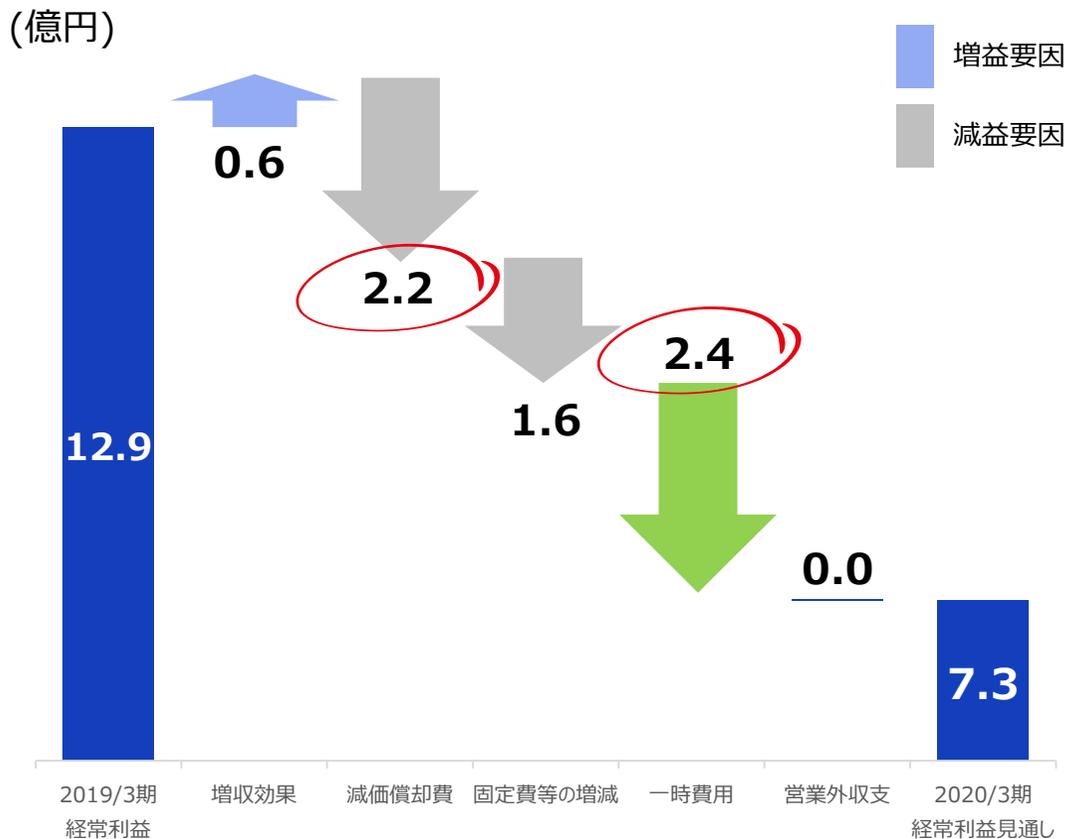
※パーセンテージは全社売上に占める割合



2-6. 2020年3月期 経常利益増減要因分析(通期見通し)

- 期初における当期経常利益増減分析見通しを再掲。上期終了時点で想定に変更なし
- 大幅減益想定の主因は償却費、人件費、R&D費用の増加及び一時費用の影響
- いずれも短期的負担は重いが、将来を身軽にするための先行投資との位置づけ

2020年3月期 経常利益の増減要因 (見通し)



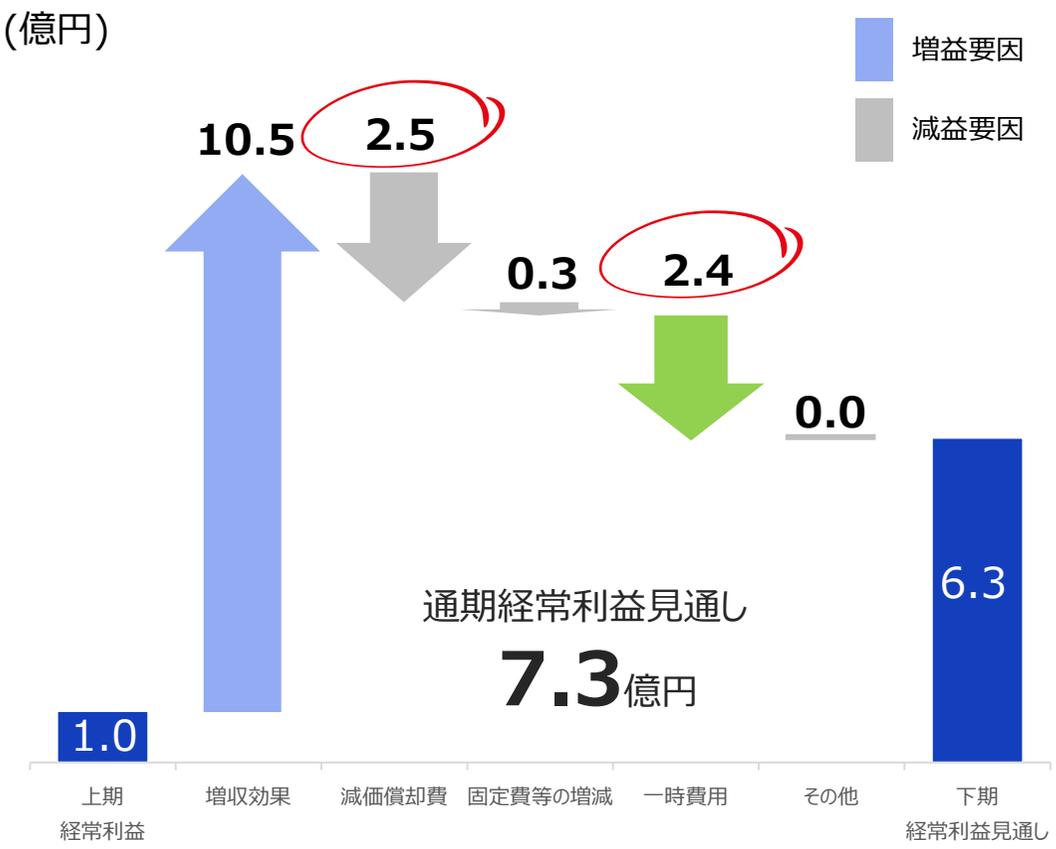
- 増収効果 +0.6億円
機能材料分野：量産品の置換え端境期で一時的に減収見込み
医薬分野：量産品の増収を想定
バイオ分野：好調維持も、伸びは一旦減速
- 減価償却費の増加 △2.2億円
- 固定費の増加 △1.6億円
人員増による人件費増
研究開発費増加
- 一時費用の計上 △2.4億円
退職給付引当金などを一括計上
次期以降の計上は大幅に縮小する見通し
- 営業外収支 +0.0億円



2-7. 2020年3月期 上期対下期経常利益増減要因分析

- 下期は開発・量産ステージ案件の売上計上が集中。上期の期ズレ影響の修正も寄与
- 一方、下期は償却費増や一時費用計上といった「先行投資」的成本も集中
- 全社損益では増収効果で先行投資的成本増を吸収し、下期は対上期で増益を想定

2020年3月期 上期対下期 経常利益の増減要因（見通し）



- 増収効果 +10.5億円
 - ✓ 当社領域の中間品への分業需要は引続き旺盛
 - ✓ 生産能力面での余力捻出による機会損失の抑制
 - ✓ 期ズレ影響の解消
- 減価償却費の増加 △2.5億円
- 固定費等の増減 △0.3億円
研究開発費増加
- 一時費用の計上 △2.4億円
退職給付引当金などを一括計上
- その他 △0.0億円



2-8. 2020年3月期に対する当社の考え方

- 旺盛な「分業需要」は、会社を成長させるチャンス
- このチャンスを逃さないためには、生産能力の引き上げが必須

生産能力の引上げの対応策として
2020/3期は「一旦屈む」決断を選択

その間に

- ✓ 設備投資拡大
- ✓ 従業員練度の向上
- ✓ 従業員確保のための厚生制度強化

を推進する計画

ビジネス機会の
着実な取込み
適性操業による
R&D効率改善

目指す状況
生産能力の
上方弾力性引上げ

旺盛な「分業」需要

現在の当社の状況
生産能力の限界

機会損失の発生
高負荷操業による
R&D効率低下

需要拡大の追い風をフルに
享受できない状況の発生

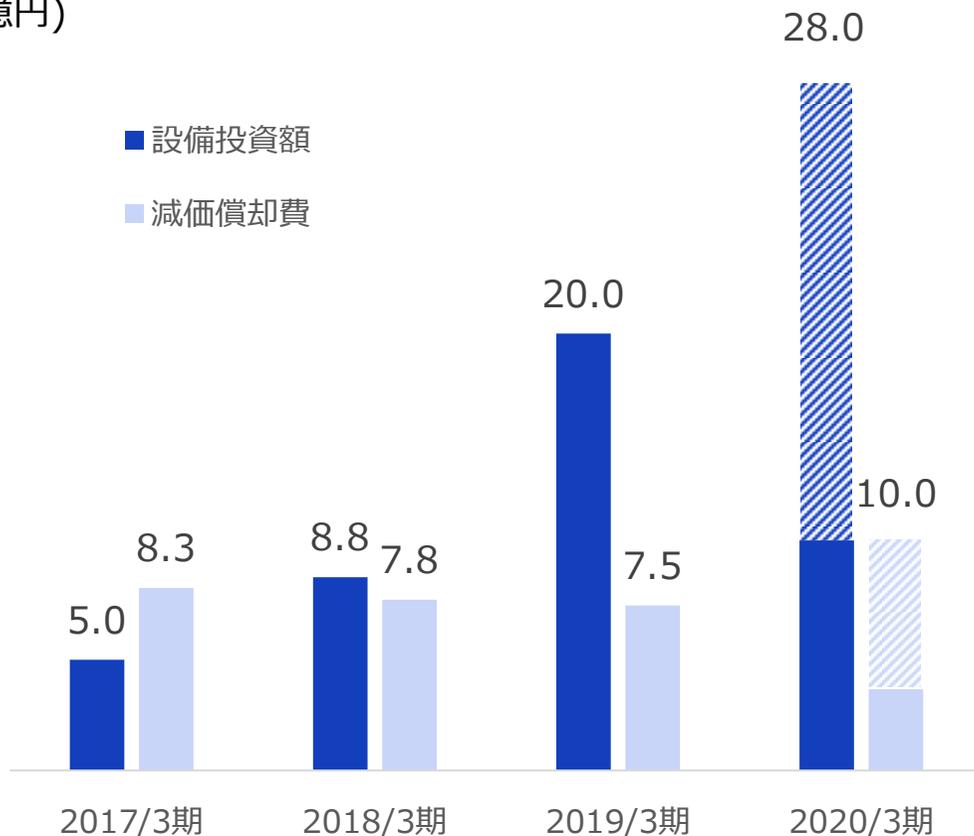


2-9. 設備投資動向

- 前期より進めていた「生産ボトルネック」解消に向けての積極投資は当期がピーク
- 来期以降の投資は外部環境を見極めて判断する方針

設備投資と減価償却費の推移

(億円)



<2019/3期の主な設備投資>

- 出雲工場キロラボ工場及び研究棟取得
- 新研究所・本社用土地建物取得

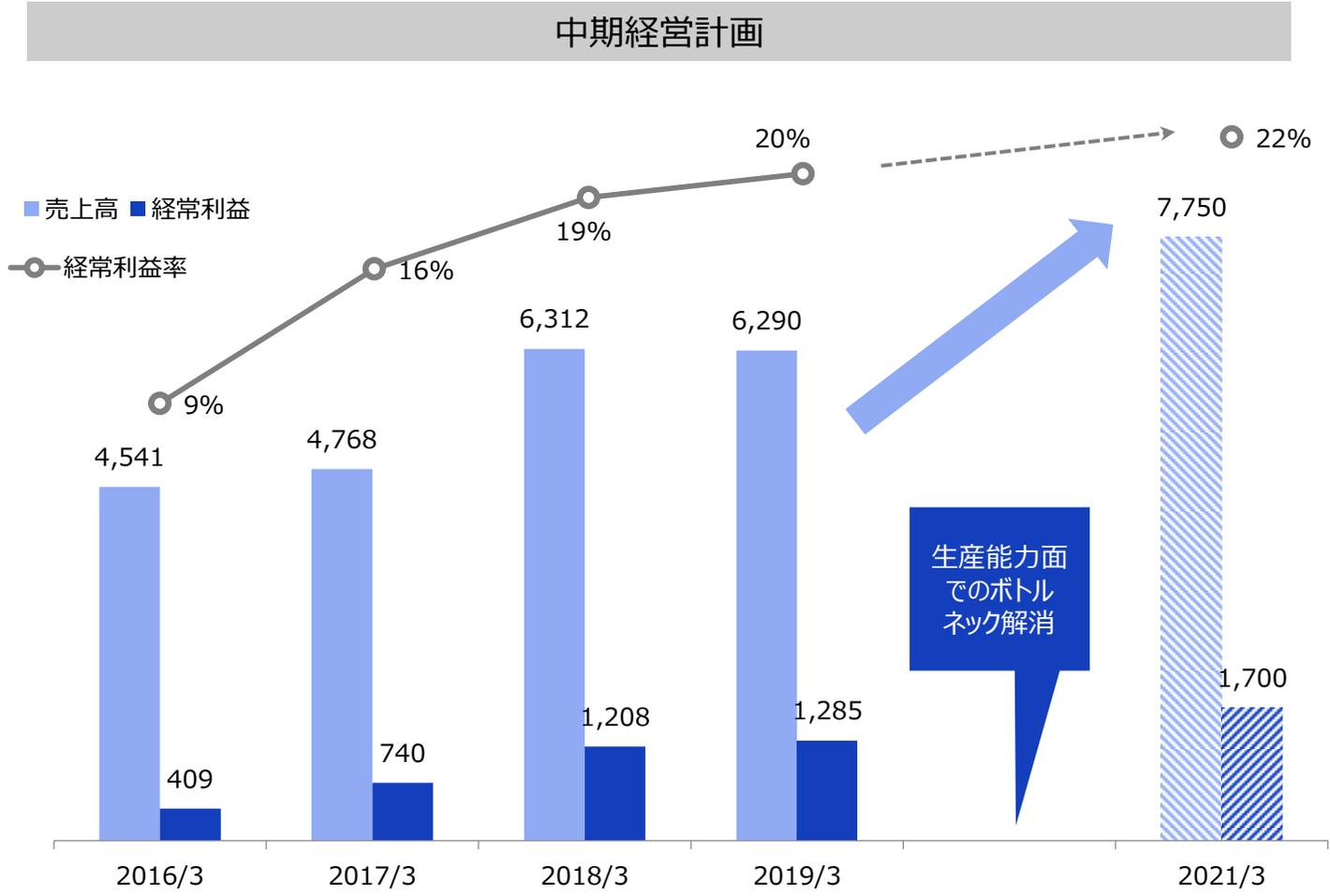
<2020/3期の主な設備投資>

- 医薬原薬精製棟建設
- その他量産ステージ増加対応



2-10. 中期展望

- 2021/3期の売上77億円程度、経常利益17億円程度の展望に変更なし
- 展望実現に向けて、生産能力拡充の加速によりボトルネック解消を急ぐ

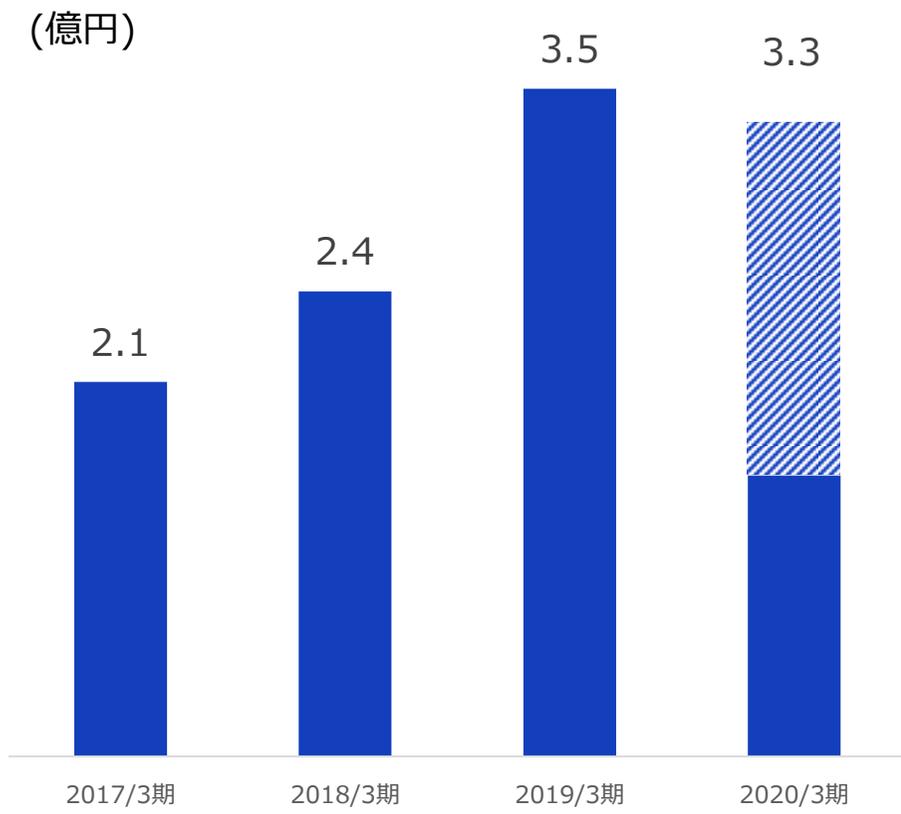




3. TOPIC

- 長期的な競争力の源泉であるR&Dへの投資も積極的に継続する計画
- 2020/3期はほぼ前年並みの水準を予定。ニーズあれば上乘せの可能性も

研究開発費の推移



<中分子医薬>

- 次世代産業である中分子医薬(糖鎖、ペプチド、核酸)の技術開発

<低分子医薬>

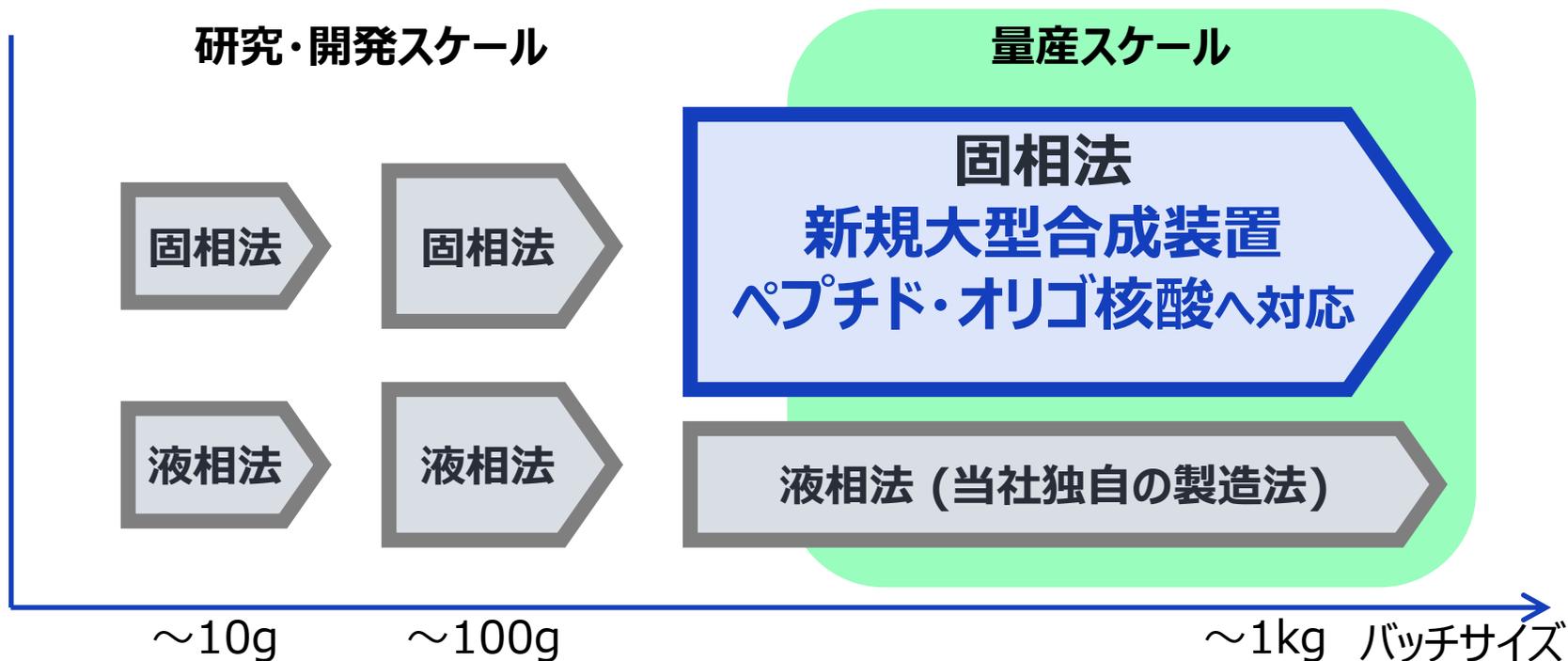
- 低分子医薬の研究を実施し、創薬会社へのライセンスアウト、さらに最新技術も開発

<バイオ分野、機能材料分野>

- バイオを利用した製造技術の開発
- 企業との共同研究による新素材の製造技術の開発

ヤマト科学株式会社と共同で、中分子医薬品製造向け新規固相合成装置を共同開発及び導入（2019年10月21日 当社ウェブサイトにてニュースリリース）

中分子医薬品向けソリューション提供のイメージ



- 本装置により、固相法による**中分子医薬の量産スケール製造**(Kgスケール)が可能に
- オリゴ核酸製造においては、当社独自開発の液相製造（特許出願済）に加え、新たに固相合成法を開発することにより本装置での製造が可能

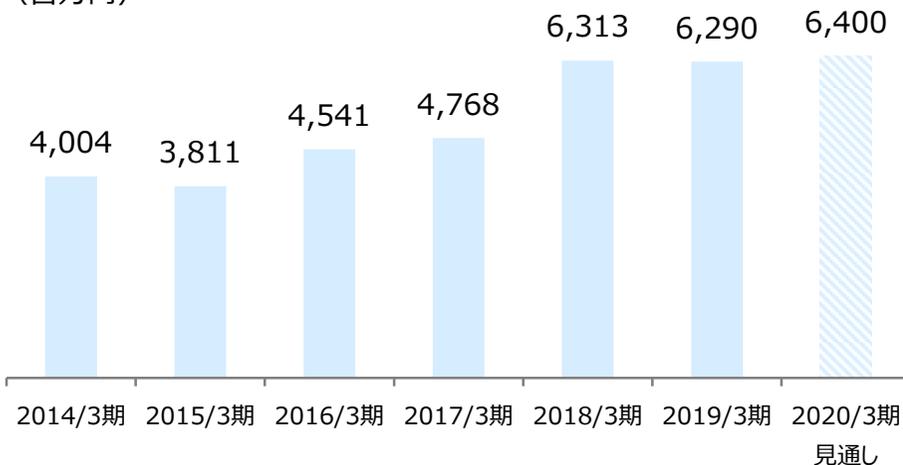


4. Appendix



売上高

(百万円)



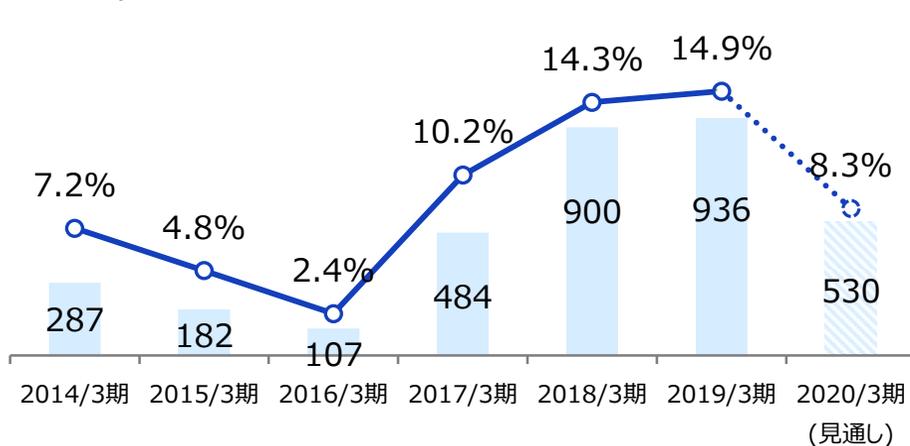
経常利益・経常利益率

(百万円)



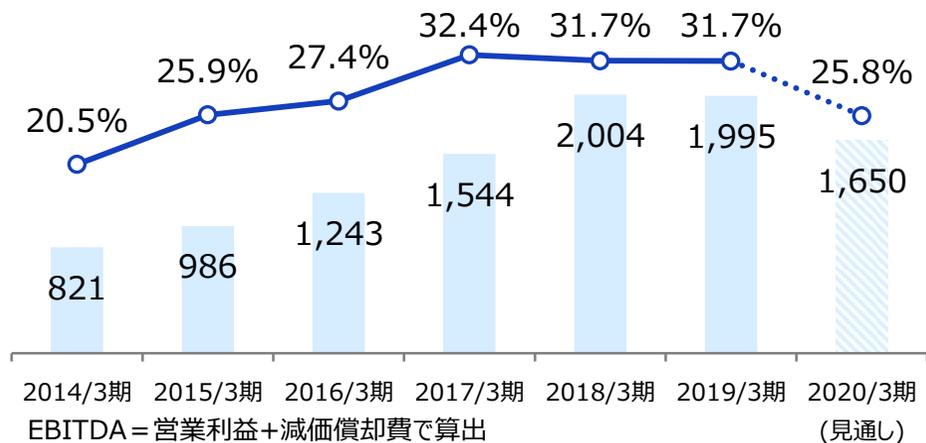
当期純利益・当期純利益率

(百万円)



EBITDA・EBITDAマージン

(百万円)



2016年3月期は連結財務諸表を作成していますが、比較可能性の観点から上記は全て単体の数値を記載

項目 (単体)	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期
売上高 (百万円)	4,004	3,811	4,541	4,768	6,312	6,290
経常利益 (百万円)	282	217	409	740	1,208	1,285
当期純利益 (百万円)	287	182	107	484	900	936
EBITDA* (百万円)	821	986	1,243	1,544	2,004	1,995
売上高経常利益率	7.1%	5.7%	9.0%	15.5%	19.1%	20.4%
売上高当期純利益率	7.2%	4.8%	2.4%	10.2%	14.3%	14.9%
EBITDAマージン*	20.5%	25.9%	27.4%	32.4%	31.7%	31.7%
現金及び預金 (百万円)	581	772	835	1,262	5,413	3,072
借入金・社債 (百万円)	2,539	3,978	4,051	3,236	2,256	978
純資産額 (百万円)	3,476	3,663	3,783	4,183	8,736	9,454
総資産額 (百万円)	7,267	8,514	8,681	8,838	12,688	12,002
自己資本比率	47.8%	43.0%	43.6%	47.3%	68.9%	78.8%
配当性向	6.9%	11.0%	55.8%	18.6%	21.4%	20.6%
役員・従業員数	209人	212人	216人	237人	254人	270人

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



当社が中心となる研究開発事例（抜粋）

分野	現時点の成果	研究テーマ	期間	主な共同研究先	競争的資金/事業母体
中分子 医薬	特許出願	正常型CD44mRNAの発現を増加させる核酸医薬の創製	2013年度～ 2014年度	神戸学院大学	兵庫県COE
	特許出願	前頭側頭型認知症治療薬の開発	2016年度～ 2020年度	名古屋大学 大阪大学	AMED
	特許出願	オリゴ核酸合成技術の開発	2016年度～	—	—
低分子 医薬	特許出願 ジェイファーマ(株) ライセンス契約	LAT-1選択的阻害活性を有する化合物の創製	2011年度～	大阪大学	医薬基盤研 AMED
	特許出願	アルギニン-バソプレシン1b受容体拮抗作用を有する化合物の創製	2012年度～ 2013年度	京都大学 大学発ベンチャー	—
	特許出願	メモリー型T細胞活性化材の開発	2014年度～	大阪大学	—
バイオ	ノウハウの蓄積	革新的バイオマテリアル実現のための高機能化ゲノムデザイン技術開発	2012年度～ 2016年度	神戸大学 等	経済産業省
	ノウハウの蓄積	糖鎖利用による革新的創薬技術開発	2016年度～ 2020年度	産総研 等	AMED
	ノウハウの蓄積	植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発（助成事業/委託事業）	2016年度～ 2020年度	キリン(株) (株)竹中工務店 味の素(株) 等	NEDO
その他	ノウハウの蓄積	テロメアDNA検出を指向した電気化学活性プローブ化合物の開発	2015年度～ 2017年度	九州工業大学 等	島根県

- 1985年 神戸市西区に神戸天然物化学株式会社設立
- 1988年 岩岡工場開設
- 1993年 市川研究所開設
- 1997年 明石市に本社移転
- 2001年 出雲第一工場開設
- 2002年 現在地に本社移転 神戸研究所開設
- 2003年 大地化成株式会社を買収（2010年売却）
米・KNC Laboratories. Inc., 設立（2007年閉鎖）
中・大神医薬化工（太倉）有限公司 設立（2007年完全子会社化 2016年売却）
神戸工場開設
- 2005年 KNCバイオリサーチセンター開設
- 2007年 つくば大学内にKNC-筑波ラボラトリー開設（2012年閉鎖）
- 2009年 出雲第二工場開設
- 2013年 出雲第一工場内に医薬品原薬精製・粉碎設備棟を建設
出雲第二工場内にCNT分散体工場を建設
- 2014年 KNCバイオリサーチセンター内に培養新棟を建設
- 2015年 出雲第一工場内にペプチド・核酸原薬工場棟を建設
- 2017年 出雲第一工場内に新品質管理棟を建設
- 2018年 東証マザーズ上場



< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画室 IR担当
078-993-2203 (代表)
Knc-IR@kncweb.co.jp